

広告

企画・制作／
読売新聞社広告局

医師が教える「美・健康ナビ」

医師による美と健康に役立つアドバイス「美・健康ナビ」を毎月1回、シリーズで連載しています。

第32回

眼瞼下垂症^{がんげん}

日常生活での予防も大切
「まぶたを切らない治療法も」

「眼瞼下垂」とは、まぶたを持ち上げる筋肉（眼瞼挙筋）が弱まり、目が十分に開かなくなる状態のことです。先天性の場合もありますが、多くは加齢で起こります。

眼瞼下垂になると、視界が狭くなることで目が疲れやすくなり、頭痛や肩こり、自律神経失調症などを引き起こします。また、眠そうに見える、額の筋肉でまぶたを上げることで額に深いしわが入るなど、顔の印象が変わってしまう場合があります。

治療は、上まぶたを切開して眼瞼挙筋を固定する手術が多く採用されます。術後は腫れがあり、回復には時間が必要。早めに症状や予算、スケジュールなどを専門医に相談し、ゆとりをもって治療に取り組んでください。健康保険適用外の自由診療では、まぶたを切らない方法もあり、選択肢は広がっています。コンタクトレンズや二重まぶたを作るための接着剤、花粉症やアトピーなどで目をこすることが原因になる場合もあります。眼鏡を使うなど、日常生活でまぶたに負担をかけないよう心がけましょう。



こうしょう
木下 孝昭先生

医療法人社団 孝昭クリニック院長
医学博士